

ウイルス性胃腸炎に対する 保育園での感染防止対策

ウイルス性胃腸炎（感染性胃腸炎＝お腹の風邪）とは、主にウイルスなどの微生物を原因とする胃腸炎の総称です。原因となるウイルスには、「ノロウイルス」、「ロタウイルス」、「サポウイルス」、「アデノウイルス」などがあり、主な症状は腹痛・下痢、嘔吐、発熱です。「ロタウイルス」、「アデノウイルス」による胃腸炎は、乳幼児に多く見られます。

大人もうつりますので、ご注意ください。

アルコールでは、ウイルスの分厚い一重構造の外壁を壊すことができません。（**アルコールでは、ウイルスを退治できません**）

次亜塩素酸ナトリウムでの消毒が必要になります。

皮膚に付いたウイルスに対しては、**石鹼による手洗い**が最重要となります。

〈ノロウイルスの感染経路〉

他のウイルスも、カキからの感染以外の感染経路は、同じです。



保育園のスタンダードプリコーション

保育園は、子ども達が集団で生活している場
＝よだれが出ていたり、個別に保育をしているわけではないので、
感染症は流行しやすい環境にあります。

そのため、子どもの成長の妨げにならないように...保育の質が落ちないように考えながら常に感染予防を行っています。

昨年度からは、新型コロナウイルス感染症防止策として、さらに強化した防止策を取っています。

ウイルス性胃腸炎（感染性胃腸炎）が流行しているクラスにおいても、このスタンダードプリコーション（標準予防策）をもとに、嘔吐時や排便時の対応を強化した形で防止策を行っています。

排便時のおむつ交換 保育者の感染防護

おむつ交換を行う保育者は、
クラスごとにその日の担当者を決めています。
おむつ交換をする保育者は、
食事介助や授乳は行いません。
保育者が媒介にならないように、使い捨てのものを
使用しています。



手洗いを丁寧に、こまめに行います。

排泄介助は、職員も子どもも一人ずつ手洗いをします。

トイレの蛇口は自動センサーです。

個人タオルは使用せず、
全員ペーパータオルです。



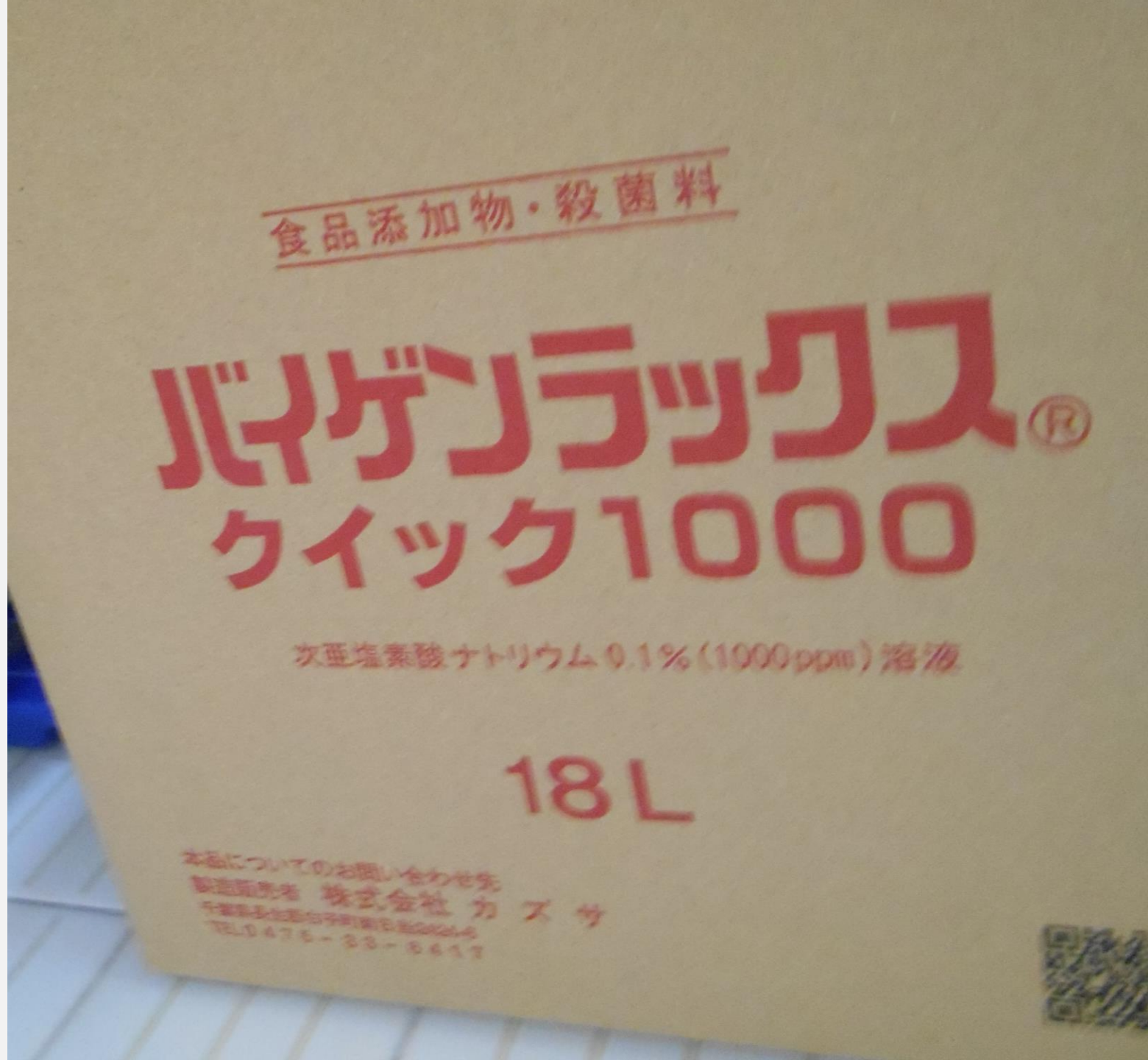
0歳児の食事介助や授乳を行う保育者は、手洗いブラシを使用して、手洗いを行います。（ブラシは、毎回0.1%次亜塩素酸ナトリウムで消毒）

子どもも手洗いをします。立てない子どもは、トイレのたびに抱っこで石鹸を使って手洗いをしています。



おむつ台や
乳児トイレの消毒
次亜塩素酸
ナトリウム0.1%

排泄介助で使用後のおむつ台、
ドアノブ、
電気スイッチ、
手すり、
等、手で触れる場所は、こまめ
に消毒を行っています。

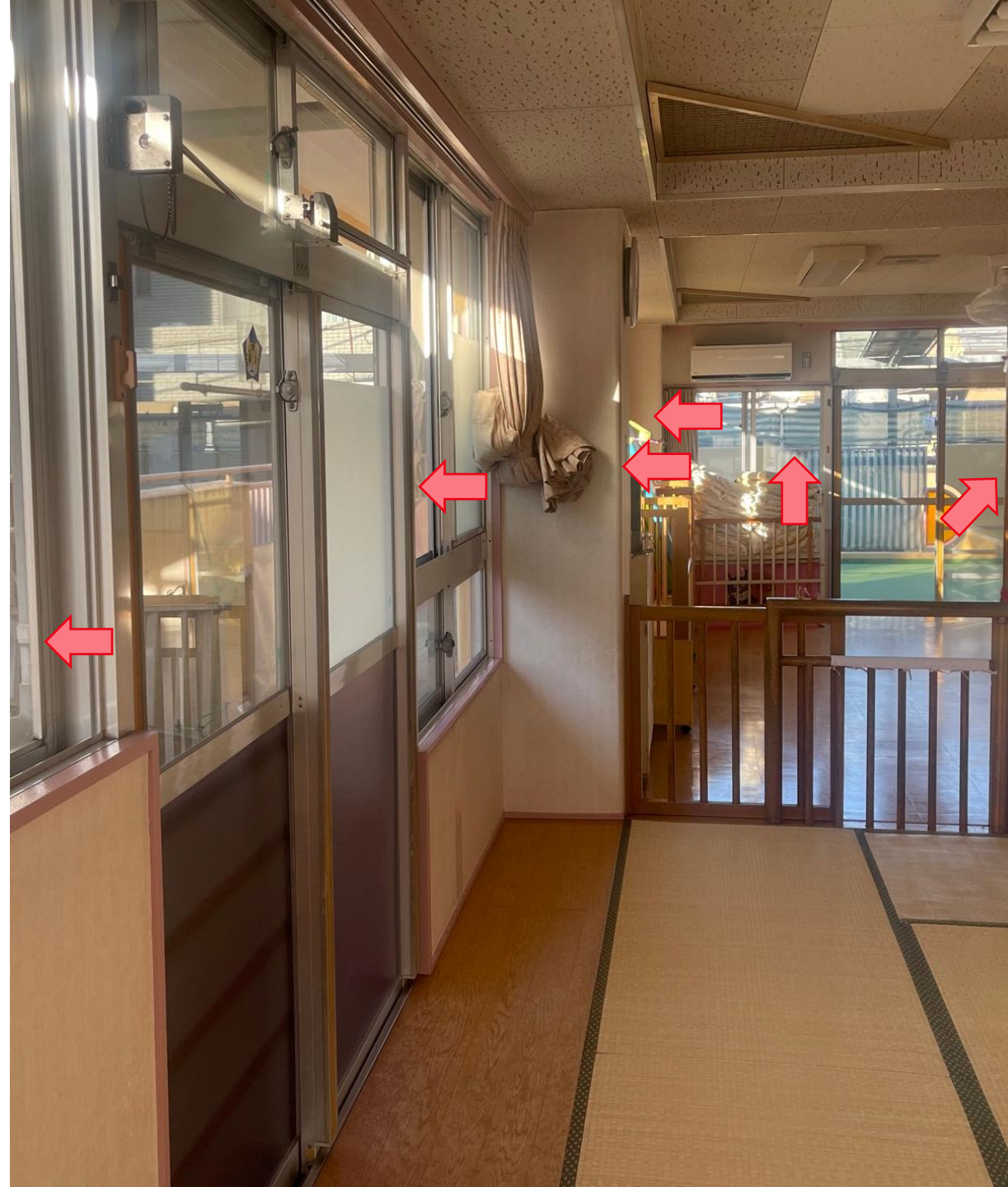


換気

換気は常に...

保育室の対角線上の窓を開けて、換気を行う事が、感染予防には必要。30分ごとの換気は忘れがちになるため、窓は常に開いている状態にしています。

(R2.3月～コロナ対策で開放にしています)



対角線上に窓がない保育室は、側面2つ以上を開けている。

一部、隣接する住宅からの希望で、開けられない窓があります。

二酸化炭素濃度 測定器

換気ができているか
確認しています

二酸化炭素濃度を各部
屋の場所を変えて測定
し、換気の悪い場所が
ないかを確認していま
す。各部屋、500～
600ppm未満です。

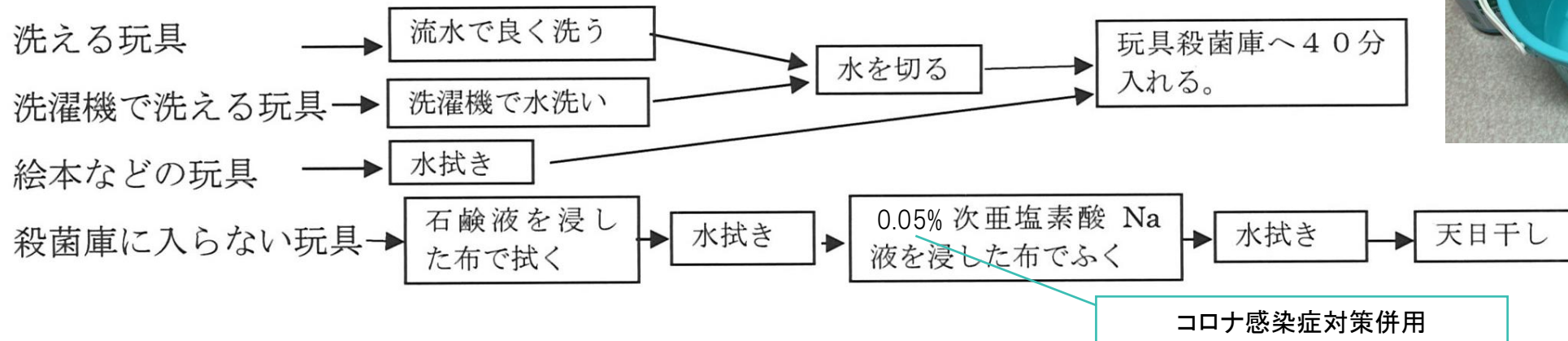


玩具の消毒

口に入れてしまう年齢のクラスの玩具は、使用したら毎日消毒を行っています。
大きいクラスも、できるだけ同じ玩具は使い続けない等の工夫をしています。



おもちゃ殺菌保管庫を使用。
紫外線殺菌ランプ。
遠赤外線ヒーターにより乾燥。
水ぶきや水道水洗浄の後に使用。





ねんねの子どもの玩具

。月齢の小さな子ども達の玩具は、個別使用にしています。一日使用したら、流水で洗い殺菌庫で消毒を行います。

玩具の仕分け

小分けにしたケースに入れ、使用したものと未使用のものがわかるようにしている。
使用したら、殺菌庫で消毒。

